



11-2
歴史

宗教改革からプロイセン台頭までのドイツの歴史
～宗教改革・30年戦争・プロイセン・オーストリア～

会場

学園都市センター
※ P87 参照

提供

明星大学

曜日・回数

土曜日 4回

時間

10:20～11:50

受講料

3,500円

定員

30名

実施日

11月 11日 18日 25日

12月 2日

備考

1517年マルティーン・ルターが、95か条の論題を発表して、ローマカトリック教会の免罪符販売を糾弾して宗教改革ののろしを上げてから、今年が500年目になります。この宗教改革の功罪を問い、30年戦争、プロイセンの台頭、オーストリアの国内改革などを見ていきたいと思えます。

【授業計画】

第1回目：宗教改革と宗教戦争

ルターの宗教改革は、ヨーロッパ各地に宗教戦争という血みどろの戦いを引き起こしました。その状況を見ていきます。

第2回目：30年戦争

宗教戦争の最後で最大のものである30年

戦争がいかにドイツを荒廃させたかを見ていきます。

第3回目：プロイセンの台頭

荒廃したドイツの中で、プロイセンがオーストリア（ハプスブルク朝）と並ぶ勢力になる過程を見ていきます。

第4回目：オーストリアの国内改革

プロイセンの台頭を阻止するべく、オーストリア（ハプスブルク朝）が、いかに国内改革をやり、それが成功したか否かを見ていきます。

受講生への
メッセージ

宗教改革・宗教戦争・30年戦争・プロイセン・ハプスブルク朝関連の書籍を読んでおかれるとよいと思います。

例えば『ビスマルク上・下』ジョナサン・スタインバーグ著（白水社）などがあります。



【講師】岡田 恒雄（おかだ つねお）人文学部 教授

専攻はドイツ演劇（ヴェーデキント、ブレヒト、J.M.R.レンツなど）ですが、ブレヒトとの関連でヒトラーやナチス第3帝国の研究もしております。ドイツと日本の伝統演劇の比較もしております。

最終学歴は、1983年3月早稲田大学大学院博士後期課程ドイツ文学専攻単位取得済み満期退学です。